

特別勘定運用部 2024年6月17日

先週のポイント

FOMCではFRBの利下げに慎重な姿勢が示されたが、発表された経済指標がインフレ減速を示唆したことなどから、米金利は低下、ハイテク株に買いが入りナスダックとS&P500は最高値を更新。国内では、日銀が金融政策決定会合において国債買い入れの減額方針の具体案決定を先送りしたことなどから国内金利は低下、為替市場では円安ドル高が進行した。

Table with 8 columns: Index Name, 2024年3月末, 5月31日, 6月7日, 6月14日, (昨年度末~) 2024年3月末比, (前月末~) 5月31日比, (前週末~) 6月7日比. Rows include Nikkei, TOPIX, NY Dow, S&P 500, Nasdaq, Euro Stoxx, Shanghai Composite, Yen/Dollar, Yen/Euro, Dollar/Euro, and WTI Oil.

*金利は変化幅

Table with 8 columns: Country/Instrument, 0.73, 1.07, 0.98, 0.94, 0.22, -0.13, -0.03. Rows include 10-year government bonds for Japan, USA, Germany, Italy, Spain, and France.

先週の市場動向(内外株式)

*市場が休日の場合は前営業日の数値を記載しています。

(出所)Bloomberg

国内株式 | まちまち 週初は円安ドル高進行や米ハイテク株高が支えとなり上昇して始まった。その後、FOMCなどを前に様子見姿勢が強まったものの、週末の金融政策決定会合の内容が市場予想よりハト派的と受け止められたことなどから小幅に上昇し、日経平均株価は前週末比131円上昇の38,814円で取引を終えた。

東証33業種別騰落率 (上位) 1 石油・石炭製品 6.0%, 2 機械 4.0%, 3 非鉄金属 1.5%, 4 鉱業 1.4%, 5 金属製品 1.1% (下位) 1 海運業 -5.1%, 2 証券業等 -4.3%, 3 医薬品 -3.3%, 4 陸運業 -2.5%, 5 空運業 -2.5%

(出所)Bloomberg

米国株式 | まちまち 米CPIなどのインフレ関連指標が市場予想を下回り、金利低下に伴いハイテク株に買いが入り、S&P500とナスダック総合指数は最高値を更新した。一方でダウ工業株30種平均は、欧州の政治不安などから週末にかけて下落し、前週末比209ドル下落の38,589ドルで取引を終えた。

S&P500業種別騰落率 (上位) 1 情報技術 6.4%, 2 不動産 1.2%, 3 コミュニケーションサービス 0.9%, 4 一般消費財・サービス 0.3%, 5 公益事業 -0.1% (下位) 1 エネルギー -2.3%, 2 金融 -2.0%, 3 生活必需品 -1.2%, 4 資本財・サービス -1.0%, 5 素材 -0.9%

(出所)Bloomberg



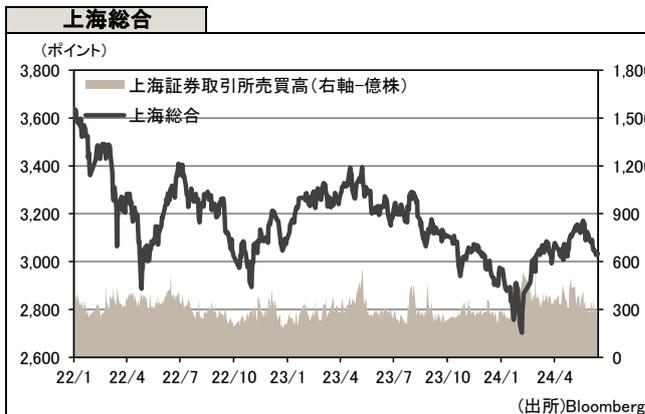
(出所)Bloomberg



(出所)Bloomberg



(出所)Bloomberg



(出所)Bloomberg

先週の市場動向(内外金利、為替、経済指標)

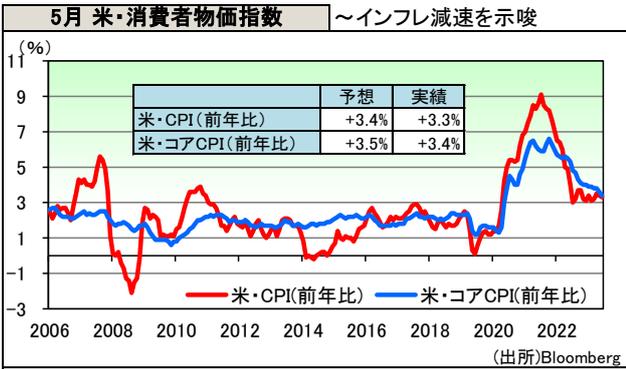
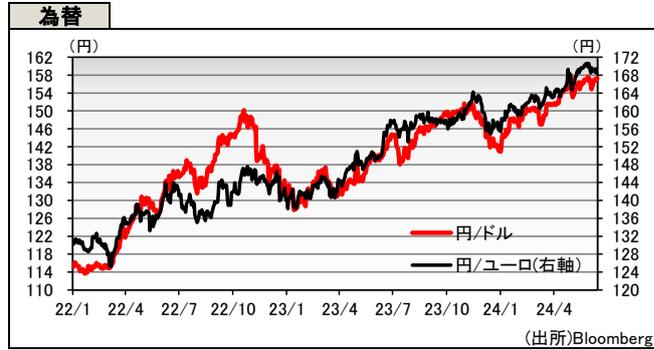
国内金利 金利低下
週初は、米国金利の上昇などから上昇したが、その後、米国金利の低下や日銀が金融政策決定会合において国債買入れの減額方針の具体案決定を先送りし、追加利上げも遅れるとの見方から低下し、週間で低下した。

米国金利 金利低下
FOMCでは年内利下げ見通しが1回まで切り下げられたものの、米CPIや米PPIなど、発表された経済指標がインフレ鈍化を示唆したことなどから米国金利は低下基調で推移し、週間で金利低下となった。

為替 円安ドル高
米CPIが市場予想を下回り、円高ドル安が進行する局面もあったが、利下げに慎重なFRBの姿勢や、日銀が慎重に金融引締めを進める姿勢を見せたことなどから、当面は日米金利差が縮小しにくいとの観測から一時158円台前半まで円安ドル高が進行した。

日付	国	イベント	予測値	実績値	判定
6/10	日	4月 貿易収支(十億円)	-346.7	-661.5	×
	日	5月 景気ウォッチャー調査(現状)	48.5	45.7	×
	日	5月 景気ウォッチャー調査(先行き)	49.0	46.3	×
6/12	米	5月 消費者物価指数(前月比)	0.1%	0.0%	×
6/13	米	新規失業保険申請件数(千人)	225	242	×
6/14	米	ミシガン大学消費者信頼感指数	72.0	65.6	×

※ 判定は、事前予想よりポジティブであれば○。(出所)Bloomberg



6月・FOMC ~年内利下げ回数見通しが1回に減少

- 12日、FRBはFOMCにおいて7会連続となる政策金利の据え置きを決定した。
- 四半期に一度公表される経済見通しでは、年内の利下げ予想が参加者の中央値で3回から1回に減少したほか、24年末のインフレ率が2.6%に上方修正され、政策金利見通しの長期予測の中央値も2.6%から2.8%に引き上げられた。
- 会合後の記者会見において、パウエル議長は、インフレが緩やかに減速していることを認めつつも、現時点での緩和は正当化できないとし、利下げ時期や具体的な条件には言及しなかった。また、同日発表された5月の米・消費者物価指数(CPI)が市場予想を下回ったものの、政策の判断材料に含まれていないことを暗に認めた上で、インフレ見通しは保守的に行なっていることが強調された。
- 6月に利下げを開始したカナダ中央銀行やEOBのようにFRBが利下げに備えた議論をした形跡は見られなかった一方、市場では5月の米CPIや生産者物価指数(PPI)の減速を受けて利下げ観測が高まり、金利が低下する展開となった。パウエル議長は、5月の米CPIの結果を歓迎しつつも、利下げのためには更にインフレの減速を示すデータが蓄積される必要があると発言していることから、FRBも市場も、利下げを行えるだけの十分な証拠を探す展開がしばらく継続するものと見込まれる。

FOMC参加者の経済・政策金利見通し

		2024年	2025年	2026年	長期
		6月	2.1%	2.0%	2.0%
GDP成長率	3月	2.1%	2.0%	2.0%	1.8%
	6月	4.0%	4.2%	4.1%	4.2%
失業率	3月	4.0%	4.1%	4.0%	4.1%
	6月	2.6%	2.3%	2.0%	2.0%
PCEインフレ率	3月	2.4%	2.2%	2.0%	2.0%
	6月	2.8%	2.3%	2.0%	
PCEコアインフレ率	3月	2.6%	2.2%	2.0%	
	6月	5.1%	4.1%	3.1%	2.8%
政策金利	3月	4.6%	3.9%	3.1%	2.6%

(出所) FRB

今後の見通し

株式等のリスク性資産は上値の重い展開を見込む

・先週の米国株式市場は、発表された経済指標がインフレ減速を示唆し、金利が低下、ハイテク株に買いが入ったことなどから、ナスダック、S&P500指数は最高値を更新、経済の軟化が意識されたことから景気敏感株を中心に売りが出たことで、NYダウは週間で下落した。

・今週は、18日に5月・米小売売上高の公表を控えている。4月の小売売上高の結果は個人消費の減速を示唆したが、5月の結果がインフレ抑制と経済のソフトランディング期待の双方にとってバランスのとれた結果になるか注目される。足元では市場の米インフレ減速の見方が強まったものの、欧州議会選で極右や右派勢力の躍進以来、欧州政治不安が煽っていることなどから、株式等のリスク性資産は上値の重い展開が見込まれる。また、今週はFRB高官の講演が相次いで予定されており、米金利の高止まりを示唆する発言が円売りを更に促す可能性には注意が必要である。

※ 現時点での市場見通しを示したものであり、当社の投資方針と必ずしも整合するとは限りません。
 ※ 本資料は当社が情報提供を目的に作成したものであり、保険募集を目的とするものではありません。
 ※ データの一部は当社が信用できると判断した情報源より作成しておりますが、正確性・完全性について当社が保証するものではありません。お問い合わせ先: 特別勘定運用部
 ※ 最終ページのご連絡事項についてよくお読み下さい。

今週の注目イベントなど

日付	国	イベント	予測値
6/17	日	4月 機械受注(船電除民需、前月比)	-2.9%(実績)
	中	5月 鉱工業生産(前年比)	6.2%
	5月	小売売上高(前年比)	3%
	欧	ラガルドECB総裁発言	-
6/18	独	6月 ZEW景気期待指数	49.5
	米	5月 小売売上高(前月比)	0.3%
	米	5月 鉱工業生産(前月比)	0.3%
6/19	日	日銀金融政策決定会合議事要旨(4/25-4/26開催)	-
6/20	米	5月 住宅着工件数(千戸)	1375
6/21	日	5月 消費者物価指数(前年比)	2.9%
	日	6月 製造業PMI	-
	欧	6月 製造業PMI	47.9
	米	6月 製造業PMI	51
	米	5月 中古住宅販売件数(百万件)	4.09

(出所)Bloomberg等

第一生命保険株式会社

お問い合わせ先: 特別勘定運用部
 TEL 050-3780-1007